

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 1 月 26 日 (2017.1.26)

【公開番号】特開 2015-131334 (P2015-131334A)

【公開日】平成 27 年 7 月 23 日 (2015.7.23)

【年通号数】公開・登録公報 2015-046

【出願番号】特願 2014-5080 (P2014-5080)

【国際特許分類】

B 2 1 J 5/06 (2006.01)

【F I】

B 2 1 J 5/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 12 月 8 日 (2016.12.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

柱部材 4 3 が所望の高さになったら、待機位置にあるロックナット 9 3 を回転させつつ上昇させ、柱部材 4 3 を強制的に押し上げる。これで、雄ねじ 9 1 に雌ねじ 9 4 が、より強く噛み合い、弛み止め作用が得られる。

なお、ロックナット 9 3 を回転させるときに、柱部材 4 3 が僅かであるが、共回りすることがある。スパナ掛け 9 5、9 5 にスパナを掛けた状態で、ロックナット 9 3 を回すと、共回りが防止できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

さらには、ダイホルダ 1 4 とパンチホルダ 1 6 の一方にストライク部材 4 0 を設け、他方にバイパス弁 7 0 を設ける他、ストライク部材 4 0 又はバイパス弁 7 0 はダイホルダ 1 4 の代わりに床に設けることもできる。よって、ストライク部材 4 0 はダイホルダ 1 4 とパンチホルダ 1 6 の一方に対して相対移動不能に設けられればよく、取付け部位は任意であり、バイパス弁 7 0 は他方に対して相対移動不能に設けられればよく、取付け部位は任意である。